

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 9月 11日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103940		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホーム ひなたぼっこ・亀山		
所在地	〒731-0231 広島県広島市安佐北区亀山五丁目9番13号 (電話) ① (082) 819-3255 ② (082) 814-3777		
自己評価作成日	令和5年8月11日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103940-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年9月4日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>家庭的な雰囲気の中で利用者が本人らしい生活が送れるように「ドライブに出掛けたい」「仕事がしたい」「〇〇が食べたい」などの希望にも柔軟に対応している。日々の生活の中から役割を持つ事、活躍できる場面、自己決定できる場面をできるだけ多く持つようにしている。利用者の声に耳を傾ける等、能力や状態に応じた自立支援に柔軟に対応できる体制にしている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>利用者の思いを共有し、目配り、気配り、心配りを目標に笑顔の見られる介護に取り組んでいる。敷地内の菜園で収穫した玉ねぎ、ジャガイモなどを使って利用者と一緒に献立を考え、職員手作りの食事を一緒に楽しむ取り組みをしている。利用者が盛り付けや、ごぼうのさきがき、床掃除などの役割を持ち、能力を活かした活躍の場がもてるよう支援している。コロナ禍で外出規制があるが、駐車場から小学校の桜を見ながら弁当を食べるなど非日常を楽しむいろいろな行事を企画し気分転換を図る工夫をしている。一緒に歌を歌ったり、折り紙をしたり、少しの空き時間も有効に使い、利用者に寄り添う時間を増やす努力をしている。災害対策にも力を入れ、避難優先順位表の掲示や避難後の利用者を安全に保護するために地域と連携協力体制を整備し取り組んでいる。</p>

自己評価	外部評価	項目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を玄関に掲示してある。又、達成する為に、ホーム内の目標を決め実践できるよう掲示しケアプランに反映させたり職員間の話し合いを設けている。	理念の共有を具体化した目標を話し合いで決め、利用者に寄り添う、気配り、目配り、心配りの目標を掲示してケアプランに反映させている。月一回の職員会議で目標プランに対しての情報を出し合い意見交換しケアプランに反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で地域交流は無くホーム内での活動に限られている。運営推進会議を通じて一部の方と電話などを通じて交流を持つことが出来ている。	コロナ禍以前は小中学校の職場体験や秋祭りなど地域と日常的に交流していた。コロナ禍でも地域の方が花を届けてくれたり、利用の相談に事業所を訪問するなど地域の一員として交流は続いている。相談時には、録画で内部を紹介する取り組みを行い地域とのつながりを持つ努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	外部の方の出入りも無くホームからの外出も無い、入居の相談は引き続き継続しており、録画にて内部の状況等を観て頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議は書面で状況報告して個別に連絡を取りながら意見交換をし改善できるところはしている。一部であるが地域との交流も広がりつつある。	書面会議を有効に行うため事前に参加者から意見、情報提供を得ている。その中には他事業所ではすでに運営推進会議を対面で開催し、ウェブを活用している等があり、その情報をサービスの向上に活かしている。新型コロナウイルス感染症に対する情報の取り組み報告では利用者の感染がないことの対策を評価してもらった。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	ホーム内での事故・感染などが発生した場合の報告及び運営推進会議の案内と議事録の送付を行っている。地域包括支援センターとの連絡も密に取り協力関係が築けるよう努めている。外出願望のある利用者様をネットワークに登録させていただいた。	地域包括支援センターから、他事業所と交流会の場を設け、お互いにケアの向上に役立てる企画を提案され、その調整を図ってもらうなど協力関係を築いている。外出願望の利用者の早期発見のネットワークに登録する情報を得て登録を行うなど日頃から連携協力関係を築く取り組みをしている。	

自己評価	外部評価	項目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議や外部研修の都度、身体拘束防止の勉強会の場を設け、職員間でも共通の意識を持ち取り組んでいる。単独外出などの事故を未然に防ぐことができるよう入口にはセンサーを設けているが、3ヶ月毎の身体拘束委員会を開催し防止、改善に努めている。	身体拘束防止委員会の議事録を利用して話し合いを行い、気づきを検討し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。スピーチロックに関しても、対応策を検討し共有している。2ユニットの意見交換の場を設け、第3者の意見を取り入れることで、身体拘束防止、ケアの改善に役立つ取り組みをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束委員会を2ユニットで行なうことにより、第三者としての意見を交換でき、ユニット内でも注意したり職員を交代したり防止に努めている。グレーゾーンについても改善できる場所は無いと話合いを設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員会議・Web研修にて勉強会を行い、学んでいる。現在、成年後見制度を利用されている方は居られないが、必要性に応じて関係者との話し合いを行い支援に努め、パンフレットも玄関に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご家族・本人の不安や疑問点を尋ね、次の施設の申し込みや、書類を取り揃える等、介護保険の区分変更を行いスムーズな退去に向けて話し合いを持っている。契約時には書面に書かれていない例えで、解りやすく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族には来所時や電話にて意見等聞けるよう努め、利用者様とは日々のコミュニケーションの中で反映させている。年に一度のご家族アンケートに意見できるスペースを設けている。運営推進会議でも意見を頂けるように個別で連絡を取っている。	面会の希望を叶えるため利用者や家族に合った方法を勘案して玄関や駐車場などで外で行うよう工夫し、運営に反映させている。利用者の声や表情やふと漏らした願望などを見逃さず共有してケアに反映している。	

自己評価	外部評価	項目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	連絡ノートや職員会議、また時間のある時に個人的に話を聞く機会を持ち、反映させている。意見があった場合には、上司に報告している。	移乗が楽になるスライディングシート(移乗用シート)、外出用の小型の車椅子、電動ベッドなど、利用者にとって便利かつスムーズな行動支援に結びつく用具の購入を職員が提案している。事業所も購入を前向きに考えて順次提案に応じている。資格取得に関して、費用、休日等でキャリア環境向上の要望に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	シフトの偏りや業務マニュアルの変更を行い、協力を得ながら働きやすい職場環境を目指している。また、職員の資格取得に向けた支援や、目的意識を持つよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍で研修に参加する機会は減っているが、必要であれば勤務体制を調えるよう考慮している。また、毎月の職員会議に相互の内部研修を行うようにしている。経験のある職員に対しても、指導職員を配置するなど分からないところは、すぐにでも聞ける、学習できる機会を持つことができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	訪問看護の看護師や薬剤師などに、困ったときにはアドバイスをいただきながら、対応方法など参考にさせて頂いている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談や事前の体験入居を行うことにより、本人の希望や心配ごとなど考慮しながら、信頼関係を築くようにしている。また、家族の思いについても考慮している。職員間で情報交換しあの時こんな事を言っていたなどもらさず関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面会制限をすることによりご家族、ご利用者共に不安があるので、よく話を聞きながら関係づくりに努めている。入居時には特に様子などをこまめに報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前には本人と家族の面談を行いアセスメントをし必要とされるサービスを取り入れ、時には地域サービス等のインフォーマルサービスの利用も検討することもある。現在は制限がある為行なえていないサービスもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	普段の生活の中で、利用者に教えてもらうことも多く、本人の出来ることを活かしながら、自立を尊重し共に支えあい関係を築いている。入居者・職員で話し合いながら野菜の収穫、草花の管理をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族との情報交換、また相談等を密にし、職員に出来ること、家族にしか出来ないことを話し合いながら支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時に馴染みの方の面会をしてよいかご家族に確認を取っている。了解を得ることが出来た方とは関係継続に努めている。	コロナ禍中は対面面会ができないため、親戚など馴染みの人との電話、携帯電話での交流など関係が途切れないように支援している。利用開始後に親しくなった利用者、職員、医師や訪問看護師などとの新しい関係継続づくりに努めて支援している。	

自己評価	外部評価	項目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が話し相手となり孤立しないよう、席の配置、食事作りや作品作り、ソファを利用し利用者同士の関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期的には少ないが、電話を通じての情報交流が出来ている方もある。地域のケアマネさんを通じて経過を尋ねることこともある。相談があれば快く対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人とのコミュニケーションを通して、希望や意見にできるだけ添えるように努めている。困難な方は、家族に相談する、生活歴などを参考にし対応している。職員間でも話し合いを持ち意見交換し、本人本位に対応している。	思いを伝えられない利用者には声、表情で思いや希望、意向を把握し本人に寄り添ったケアに繋げている。生活歴から昔の趣味を見出し、縫物が得意な利用者には繕い物を手伝ってもらったり、大正琴の再開を提案してみたり、暮らしを豊かに楽しむ支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活歴などを考慮、本人や家族に確認を行い、記録に残すなどして状況把握し、継続した環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者それぞれの状態、状況を常に意識して職員間で情報共有し、確認、把握に努めている。又、記録に残すようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月の職員会議で本人の希望、家族の意見・相談を基に話し合い、現状維持または、向上できるようにアセスメント・モニタリングを繰り返し介護計画の作成を行っている。	利用者、家族、職員、場合によっては訪問看護師、医師の意見も参考にしながら検討を重ね介護計画を作成している。帰宅願望のある利用者に対しては、十分話を聞き、寄り添いながら他に興味が持てることを一緒に模索しながら介護計画に取り入れ、その都度現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者ごとの個別記録に、気付きや本人の主張など記入し、職員間で共有している。また、それに基づき意見交換をし介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現在コロナ禍により外部との交流が出来なくなっている為、地域交流が出来ていない。外部との交流が出来るようになれば、サービス提供していく予定。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在コロナ禍により地域資源の利用が出来ていない。ホームにある畑を利用したりレクを工夫したり出来る範囲での楽しみのある生活が送れるよう支援している。現在は、訪問看護、訪問歯科、訪問美容のサービスは継続している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医の継続を希望される方はご家族に受診対応をお願いし、ホームでの状況を報告している。変更される方は紹介状をお願いしたりまた、専門医への受診もすることがある。	かかりつけ医の受診には家族が対応している。その際事業所から疑問点や利用者の日頃の状況を記載した報告書をかかりつけ医に渡している。かかりつけ医からは受診後の注意事項や薬の飲み合わせの調整などの情報の報告があり適切な医療を受けられるよう役立っている。	

自己評価	外部評価	項目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員として看護師を配置し、出勤時に健康管理等を行い、介護職員も日々の状態を報告、早目に受診し適切な治療が受けられるように支援している。月に4回の訪問看護によるサービスも導入している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療関係者との情報交換や相談・継続的な支援の必要性を話し合い、退院後の生活がスムーズに出来るように連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合を想定し、家族に早い段階から話し合いを行っている。その意見をもとに、主治医や看護師、職員と今後の対策については、本人にとって最良の結末を迎えられるようにカンファレンスを開き支援に取り組んでいる。	終末期に十分な医療を提供できないため、看取りはしていない。利用開始時に説明している。医療が必要になる段階までは十分な話し合いを行い、方針を共有し対応している。その後の病院、施設など受入れ先を見つける支援もしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時マニュアルに沿って対応の仕方を職員会議などで全職員に発信、定期的に救命講習を受け実践につなげている。判断に迷った場合にも主治医・看護師・管理者に連絡をとるなどし対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ホーム職員利用者様による年2回以上の避難訓練実施している。地域の大掛かりな避難訓練は熱中症警戒アラートで中止となった。災害時持ち出し品は、玄関先に準備し置いているが必要な物はその限りではない。	土砂災害の際は平行移動し、対応できない場合は、道路の向こう側のより安全な施設「なごみの里」に移動できるよう協力関係を結んでいる。避難優先順位表を作成し、掲示している。利用者の自立、手引き、車椅子利用の状態分けや部屋の配置図を作り玄関脇に置いて救助者がすぐ活用できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	プライバシーを配慮した声かけや対応などを行っている。また、記録などの確認をし、定期的に指導を行っている。	個人記録の記載時にトラブルがあった相手の名が分からないように配慮した書き方の確認、記録の仕方の指導を行っている。不適切な言葉かけや対応にも配慮している。同姓の利用者の呼称など家族に了解を得て名前の対応をしている。ブログや機関紙の写真掲載なども家族の同意を得て行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	それぞれの状態や能力に応じ、可能な限り自己決定の支援を行っている。また、意思表示が困難な方は、表情などを細かく観察するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の行事の参加の声掛けを行い、その日の体調や気分によって、選択できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	散髪は外部の方をお願いできる時は希望通りのカットをお願いしている。洋服は希望を聞きながら支援し、汚れたり、濡れたりした時にはその都度更衣している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を利用者と一緒に考えることがあり、調理、盛り付け、片付けなど一緒に行っている。また、行事・誕生日には工夫を凝らした料理やお酒を出し、楽しんでいただいている。時には外にテーブルを出して食事を楽しむことがある。	職員手作りの食事のため、利用者と一緒に献立を考え、畑で収穫した野菜を利用したおかずや希望に添ったおかずを提供することができ、職員と一緒に味わう食事時間となっている。利用者の力を活かし、もやしのひげ取りや、畑の大根で切干大根を作ったり、盛り付けなど食事が楽しいものになる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	野菜を中心とした食事を提供している。体重の増減や栄養状態、医師の指示に基づき個別に量も調整している。嚥下状態に合わせ、ミキサー食や刻み食を提供し水分にはトロミを加えたり、ゼリーにしたり形態を変えて摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの声かけをし、困難な方には介助を行い清潔保持に努めている。毎日入れ歯の消毒も実施した、訪問歯科の指導も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	本人の状態や状況に応じて排泄パターンを理解し、トイレの声かけ、誘導、交換を定期的に行い、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。また、本人に応じた排泄用品を検討している。	トイレでの排泄の継続を支援する体制づくりを行っている。排泄パターン、声掛け、誘導、個人によって異なる夜間のトイレ誘導やパット交換など行った結果、布パンツだけ、布パンツとパット併用者など5、6名おり、リハビリパンツ、パットの軽減にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防のため、水分や乳製品、繊維質の食材を献立に取り入れている。また、歩行運動や腹部マッサージを実施し、自然な排便ができるよう食後にはトイレに行く習慣をつけている。便秘気味の方には、排便確認表で管理を行い、牛乳や服薬等で調整することもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	予め予定を立てているが、希望する回数や時間など、体制の可能な限り対応できるように配慮している。異性対応が難しい方がいらっしやるので考慮している。	入浴や洗髪、異性の入浴介助を拒否する利用者の意向を出来るだけ汲み取り、個々に応じた入浴の支援をしている。時には、ゆず湯などで季節を楽しんでもらう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	居室の環境整備、室温管理を行い、足浴の実施や、日中の活動量を増やすなどの工夫をしている。体調によっては早めに休んでいただくこともありますし、お昼寝などされる方もいらっしゃいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルがあり、変更、服薬時など確認を行っている。状態も常に把握し、血圧測定、排便確認等を行い、不明な点などあれば、主治医や薬剤師に相談、また指導を受けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事作りや畑仕事、手芸、作品作りなど、それぞれの得意分野を見つけ、役割を持って行えるよう支援している。また、本人の希望に沿って支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出に制限がある中で、希望に添えていない。欲しい物などある時はご家族にお願いしている。	コロナ禍でも前の駐車場で弁当を食べるなど非日常を楽しむ工夫をしている。ごみ捨てを手伝ってもらいながら外気浴をしたり、草むしりをしたり、畑を眺めたりと外出したい希望に少しの時間でも気分転換ができるよう職員は寄り添う工夫をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理の出来る方は持っておられるが、外出に制限があるので、欲しい物をご家族にお願いしたり、職員が購入している。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望に合わせて、定期的に電話したり、ご家族から連絡があった場合、電話の取り次ぎをしたりお届け物は本人に開封して頂いている。年賀状の書ける方は職員が支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日々の清掃・消毒を行い時には、芳香剤を使用したり、季節に合った飾りつけ、展示物、模様替えなど、利用者と一緒に工夫し行うことで、居心地のいい空間を作っている。入浴時には脱衣場の温度調節を行っている。	明るいきりびんの外はベランダ、畑と続き、広がりのある空間となっている。2台のソファで気の合ったもの同士がおしゃべりし、居心地の良い空間となっている。壁には季節感、生活感を取り入れた作品や写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間では気の合う方との席の配置、談話室にはソファを設け、テレビ鑑賞など思い思いに利用されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人・家族と相談の上、今までの環境とあまり変わらないよう、慣れ親しんだ家具や食器などを持ってきていただいている。また、本人の好みの装飾品などを置き工夫している。	仏壇やリクライニングチェア、クッション、手作りのパッチワークなど馴染みの家具や物に囲まれ、居心地よく過ごせる居室となるよう家族と利用者、職員で工夫をしている。掃除ができる利用者は日々自室の拭き掃除を行っている。できることを活かした取り組みを職員は見守り支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状態に合わせた椅子やテーブル、手すりなどを設置し移動がスムーズに出来る様にしている。また、状態に応じて目印などで対応している。		

V アウトカム項目(亀山①) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念を玄関に掲示している。職員は出勤時に確認を行なっている。また理念達成に向け具体的な目標を立てたり、会社発信による行動指針について職員全体や個々人で話し合いを行い実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	新型コロナの影響での予防・リスク管理により、ボランティアなど地域との繋がりが交流が難しく、実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理により地域との交流もほとんどなく、地域への発信は出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理のため、集まった開催は出来ず紙面での報告を行ない、後日電話にて意見を頂きサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	季刊誌を定期的に送付している。また、ホーム内での事故・感染等が発生した場合の報告を行っている。地域包括支援センターとの連絡も取り合い、協力関係が築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	新型コロナの影響での予防・リスク管理に注意し集合型の研修参加は少ないも、Webでの研修に参加や実施をしている。ホーム内での身体拘束防止委員会は実施しており、ケアの中で身体拘束にあたる行為やグレーゾーン、不適切なケアはないか見直し、職員会議の時に検討したり研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理に注意し集合型の研修参加は少ないも、Webでの研修に参加や実施をしている。外部の研修参加やひなたぼっこ全体での研修も行っていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	新型コロナの影響での予防・リスク管理に注意し集合型の研修参加は少ないも、Webでの研修に参加や実施をしている。現在、成年後見を利用している利用者はいないが過去、利用された事例があり、制度利用が必要と思われる方には、紹介するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な時間をとり、詳しく説明を行い家族の同意を得るようにしている。不安や疑問等について確認を行い、その場で説明できない内容はいつでも確認が出来るように対応している。家族等が十分理解、納得してから契約を行なうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアプラン作成時に利用者・家族に意見や要望を確認し反映させ作成している。その他にも報告や相談時にも意見や要望等聞く機会を作り、その内容を職員会議時や随時報告にて意見等話し合い、運営やケアの向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一回での職員会議で意見を聞くようにしている。必要があれば会議以外でも意見を求めるようにしている。意見を聞く際に個人的に言いたそうなことである時は、一対一で聞くなど話しやすい場を作るようにしている。意見は随時報告・連絡を行っているが、反映についてはなされないことも多い。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	ホームとして面談にて職員個々の意見を聞く機会を設けている。資格取得支援制度があるが、その制度を使用して資格取得を目指す職員は今のところは少ない。資格取得に向けての意欲は見られる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理に注意し集合型の研修参加は少ないも、Webでの研修に参加や実施をしている。ホーム内で虐待防止研修や身体拘束防止委員会を行ない、ケアの方法や内容等を職員全体や個々人と共有し、技術・知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理のため、同業者との交流は行っていない。運営推進会議の際に、民生委員の方や地域包括の方に他事業所の内容を聞くことはあり、取り入れられる内容は活かせるよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談を行っているが新型コロナの影響での予防・リスク管理から短時間での本人の状態把握になるが、家族やケアマネ等電話での不安や要望等の確認を行ない、情報を収集をしている。また、体験入居を行ない本人の想いや不安なことを聞き、安心してもらえるよう説明や声掛け、ケア等対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理のため面会制限が継続しているが、短時間での対面面会は再開している。話をする機会や電話での連絡を重ね、家族の希望や不安などを確認するようにしている。いつでも連絡・相談できるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族、利用者の状況等を十分に確認し、必要であれば他のサービスを紹介する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者の気持ちに配慮し、日々の生活の中から教えてもらう場面や一緒に畑仕事をしたり、作品作り等の手作業など行なっている。生活歴から個人でできる役割を持ち活躍の場を作ったり、好きなことで楽しんで頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理から面会も多少の制限をさせて頂いているが、玄関先での対面面会を再開している。家族関係が維持できるように電話にて情報を共有し、適宜連絡や相談をするようにしている。また利用者が家族便りに家族への手紙を書いて送付したり、電話で話をする機会を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理から面会ができない状態になっている。電話もしくは15分程度、対面での面会対応は出来るため、家族に馴染みの方への周知を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う仲間同士が同じテーブルになるようにしている。いい関係が維持できるようにしている。一緒にドライブに出掛けたり、レクリエーションや談話の場を作り利用者同士の関わりを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	新型コロナの影響での予防・リスク管理のため退居されてからの面会に行く事は出来ていない。電話での連絡を行ったり相談等による事で情報提供をしている。転居の際も家族の意見や本人の状態を考慮した対応を行なっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その都度、利用者の希望を確認している。また、表情や行動、言動・会話から利用者の気持ちをくみ取るように心がけている。その中からなるべく本人の希望に添った暮らしができるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の事前面談で生活歴等を確認している。また、入居後も本人から聞いた話を家族に確認し生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人ひとりの生活リズムを把握するよう努めている。また、出来る事、難しい事についても日々の気づきを記録し、職員間で情報を共有するようにしている。職員は毎日の申し送りや意見の交換で確認している。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	月一回の職員会議の時にケアカンファレンスを行なっている。本人・家族にも介護計画作成時に意見を求め、本人、家族の希望に添った介護計画を作成している。設定期間でなくても随時、本人にあった内容の見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の生活記録に日々の様子を本人の訴えや説明・対応内容、対応後の反応など具体的に記録している。毎日申し送りをし職員は情報を共有し、よりよいケアの方法の意見を出し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者、家族の希望や状況に応じて柔軟な対応を心がけている。本人の希望に添い、「どこかに行きたい」「仕事をしたい」などをケアプランに取り入れ希望が叶うように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナの影響での予防・リスク管理から地域の方たちとの交流やボランティアに来ていただくことなどできておらず、地域との交流は少ない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居の際にかかりつけ医は家族と相談し決めていく。日々の観察から不調、体調変化時は早期に受診している。受診時は家族へ報告している。家族対応にて受診して頂く際には本人の状況を報告し、医師に伝えて頂くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師を配置し、利用者の健康状態や状況に応じた受診対応など随時行い、支援を行なっている。又、訪問看護サービスを契約し、休日や夜間など看護師の休みの日でも医師との間に入って頂いたり医療支援に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医師や看護師に詳しい情報を提供している。入院期間中の情報は新型コロナの影響での予防・リスク管理により様子を見に行く事が出来ず、電話で情報を得るようにしている。退院時にも詳しい情報を得るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	主治医や看護師、家族と話し合いを十分に持ち、家族や本人の希望を確認し、その内容を職員と共有し、支援できることを検討することで今後の方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルに基づいた勉強会や訓練を定期的に行なっている。また事故や急変が起こった時の状況や対応の内容等共有し、想定する機会も持ち、急変時の対応がとれるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルに基づいた研修や訓練を定期的に行なっている。避難訓練も実施しているが、新型コロナの関係により消防署職員や地域の方に訓練内容を見ていただくことは出来ていない。災害発生に備えて準備物の用意や物品の期限の確認を随時行なっている。		

自己評価	外部評価	項目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けやケアにも配慮しながらケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で希望を聞くようにしている。自己決定しやすいような声掛けを行っている。レクリエーションへの参加や作業を行なう時など、日常生活の中でなるべく多く自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のペースを大切にし、したい事・したくない事等、希望・要望の声に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の希望に添って訪問理容の際、毛染めや化粧ができるようにしている。理美容の時期も利用者・家族と相談している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と一緒に食事作りや盛り付けを行っている。利用者が食べたい食事がある時はその日の食事に取り入れるようにしている。また、外食や宅配なども利用者の希望に添って決めている。行事の時には普段より豪華な食事にもすることもあり、食事を楽しんで頂く支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	利用者一人ひとりの食事量、水分量を把 握し、それに合わせた量の提供を行なっ ている。利用者の状態に合わせ必要であ れば刻み食やトロミをつけ安全に食べる ことができるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行ない、本人ができ るところまではして頂き、仕上げ磨きやう がい等の声掛けをしている。義歯の管理 も行っている。必要な方には訪問歯科に よる口腔ケア、治療を受けてもらい指導 や助言をもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄リズムの把握に努め、 声掛けを行いトイレでの排泄が保てるよ うに支援している。一人介助での誘導が 難しい場合には二人介助での誘導するな ど、可能な限りトイレでの排泄をして頂 くようしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日排便の確認を行なっている。日々の 食事や適度な運動を心がけている。主治 医や看護師との連携も図り薬の調整等、 自然排便ができるよう便秘予防に努めて いる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	曜日・時間帯等は決める事なく、声掛け を行っている。洗身・洗髪や入浴時間の 長短等利用者のペースや希望に添って支 援を行っている。羞恥心にも配慮し、異 性対応が難しい場合には職員が変わるな ど対応している。		

自己評価	外部評価	項目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	安眠できるように環境整備している。夜間に目が覚めても職員と一緒にテレビを観たり、温かい飲み物提供したり、希望があれば夜食を食べていただいたりすることで、落ち着き安心できる支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は利用者の薬の内容を把握している。服薬確認は必ず行ない服薬ミスがないようにしている。新たな薬が処方された時には薬剤師に効果、副作用などを指導してもらい職員は薬について理解し利用者に内服してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の力に合わせて調理手伝いや洗濯物たたみなどをしていただいている。楽しみとされている事や嗜好品についても本人、家族から話を聞き、畑仕事や歌番組を見るなど本人の希望に添えるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナの影響での予防・リスク管理により外出や散歩はあまり実施出来ない。ホームの駐車場やホーム周りほどの散歩と、消毒等予防の徹底と車中から出ない条件でドライブを行なうほどだった。外出は難しくなっているが、中庭や駐車場でひなたぼっこを行うなど外気を浴びる機会を作っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一部金銭を持っている利用者もおられるが、希望を伺いながら立替にて職員が欲しい物や好きな物が購入できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(亀山②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があった際は家族へ電話をかけたり、家族から電話があった際には本人と変わり話をする機会を作っている。月に一度送るお便りには本人に想いを書いて頂くこともしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた飾り付けを行ない、。生活感や季節感を感じて過ごせるよう行っている。新型コロナの影響での予防・リスク管理からテーブルに置いている衝立にも好きな物の絵や写真など落ち着いて過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者がくつろげるような家具の配置にしている。施設内だけでなく、中庭や駐車場にも椅子を配置し、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は今まで使用していた馴染みの物なるべく持ってきていただくようにしている。家族の写真や花など好きな物を飾られ居室でもくつろげるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況に応じた環境整備を行なっている。トイレや居室などに目印をつけている。利用者の状況が変化した時はそれに合わせて環境整備を行ないなるべく自立した生活が送れるようにしている。		

V アウトカム項目(亀山②) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひなたぼっこ・亀山

作成日 令和5年10月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	18	コロナ禍で希望に沿った外出支援が出来ていない。	限られた環境の中で外出に向けた楽しみが出来るようになる。	畑作業や収穫、草むしり等季節感を感じて頂く。	1年
2	5	食事を楽しむことのできる支援。食の細かい方、食事介助が必要な方がホームで生活が出来る。	いつまでも経口摂取が出来る。	少しでも経口摂取を出来るように、形態の工夫・メニュー説明し見て楽しんで頂く工夫をする。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。